

げんき通信

抗菌薬のお話

平成30年も残りわずかになりました。これから本格的な風邪のシーズンです。さて、今回はそんな風邪とも関係の深い抗菌薬(抗生物質)のお話です。

抗菌薬といえば、日本では急性上気道炎、いわゆる「風邪」に対して使用されることが多いため、ほとんどの方が一度はのんだことがあると思います。風邪以外では、抜歯や外傷時の化膿どめとして、また、膀胱炎等の治療にも使われています。

感染症の原因となる病原体は、大きさや構造によって、細菌、ウイルス、真菌、寄生虫などに分類されます。抗菌薬は「細菌」にしか効果がありませんので、インフルエンザなどのウイルス感染には無効です。しかしながら日本では「原因がはっきりしないから、念のために抗菌薬を出しましよつ」となるケースが多いようです。

世界中で問題となっている薬剤耐性菌

たびたびやってくる頻用(乱用)と云っても

抗菌剤は医師の指示をきちんと守って、正しく使いましょう。



(木原店薬剤師/くぼ)

いいかもしれません(されてきた抗菌薬ですが、弊害も出ています。そのひとつが「薬剤耐性菌」です。薬剤耐性菌とはその名の通り、抗菌薬に耐性を持った(抗菌薬が効かなくなった)細菌のことです。海外ではこの菌による感染症で死者が多数出る事態になり、問題となっています。日本でも少数報告されており、これにより感染症以外で抗菌薬を必要とする、がん治療、臓器移植、外科手術などへの影響が懸念されています。

薬剤耐性菌がなぜ問題になるかというと、まず抗菌薬を使えば使うほど細菌が耐性化する危険が増えること、もう一つ



C O L U M N

げんきコラム

薬も大掃除しましょう!



どのご家庭にもいつのまにか使わなくなった薬が残っていると思います。年末に向けて整理してみませんか?

市販薬には「使用期限」が記載されていますが、これは未開封の場合を意味します。

処方箋でもらった残りが何の薬かわからない時は、「たぶん〇〇の薬だろう」と、自分で判断しないで、どうぞ薬剤師におたずねください!

薬剤耐性菌の発生を防ぐために大切なことは、①本当に必要な時以外は使わない、②使う時は十分な量を必要な期間続ける、の2点です。これらを判断(決定)するのは医師です。患者さんはきちんと指示を守ってください。くれぐれも「私は抗菌薬がないと、治らないから出してください」と言わないようにしましょう。また、もらったお薬は他の人に渡さない、使わせないことも大切です。抗菌薬を正しく使って、貴重な治療方法を後の世まで残したいですね。

私たちにできることは…?

興味を持たれた方はぜひご覧ください。(AMR 抗菌薬)で検索。

処方せんはぜんぶ「くぼ薬局」におまかせください。すべての病院・医院の処方せんを受け付け責任を持って調剤いたします。

みんなのまちのくすり箱



くぼ薬局



- 中町店 ☎26-2817 FAX 28-0802 ● 木原店 ☎24-2233 FAX 24-4227 ● 中の小路店 ☎24-2882 FAX 24-4503
- 西与賀店 ☎22-2311 FAX 29-2777 ● 北茂安店 ☎0942-89-1777 FAX 89-1888 ● 医大通り店 ☎32-1133 FAX 21-1344
- 本部: 県庁通り店 ☎23-4550 FAX 26-8585